

## 「生きる力を育むには」

### 子どもたちに豊かな放課後を！ ～子どもに寄り添うって、どういうこと？～

2012.12. 7

私は、高校3年生の時、障害を持つ子ども・父母と活動をする“サークルとんぼ”と出会いました。それがきっかけで、学童クラブに関わるようになりました。以来、おもに神奈川区大石・松見・子安地域で活動をしてきました。横浜市の放課後児童施策の変遷や、地域皆さんとの関係の中で、はまっこふれあいスクール、放課後キッズクラブと活動の場を移しつつ、現在は、「NPO 法人夢・とんぼ事務局」「大石台ぱれっと」指導員として活動しています。

私は、現場の実践者です。研究、探求の経験は全くありません。経験の中から、気づいたことをお話しさせていただきます。7月に続き、さまざまな現場の、たくさんの方と出会える機会をいただきうれしく思います。ありがとうございます。

## 生きる力…

**とてつもなく大変なテーマなので、「育つ」ということに置き換えてみます**  
**子どもが育つ…**

子どもは育つ力をもっているんじゃないかな…

子どもが育つ力を発揮するのはどんな時かな…

「自分でやった！」という経験が、自信につながっていく…

関係のなかで育つのではないかな…

さまざまな出会いの中で、われ・かれのちがいをわかっていく。

見よう見まねから、教え教えられる関係に

## ～子どもに寄り添うって、どういうこと？～

まず…

1. 放課後は、子どもにとって、どんないみをもつのだろう…？ おまけなんかじゃあない…

① 子どもが主役になれる時間（自分で決めていい！）

- ・初めて、自分の足で動き始める小学生
- ・想いの向くままにやってみることができる（直接体験）

② 出会い、発見、創造の時間（面白そう！すご～い！いいじゃん！やったあ！）

- ・異年齢の多様な子ども同士の、かかわりが持てる
- ・遊びを通して、出会い、発見して、自分で創りだせる

③ 知恵を身につけていく時間（まねしていい！失敗していい！間違ってもいい！）

- ・遊びを通して、教えられた知識を知恵にしていける

2. 放課後の居場所は、どんな“場”であつたら、いいのだらう…？

“場”は、関係の中で生まれます。とすると“場”のありよう、を関わる人で共有できているか…？

1 - ①. ②. ③. が、子ども自身の発想で、できる“場”としてありたい…

支援者の（スタッフ）ありようがみえてくる…

① いっしょに遊ぶ ・指導員も実感して、子どもと共感する

\* いーね！ すごーいね！

\* おもしろそうだね！ 入れて！

\* まねしていいよ、しっばいしていいよ、まちがっていいよ！

② よく聴く・観る ・気持ちを受けとめる

\* 比べない

\* 評価しない

\* 待つ

③ 子ども、支援者に大切な3つの間

\* 気持ちがふくらむ時間

\* それを待つ時間

\* うけとめる、仲間づくり(集団づくり)

④ つたえる ・子ども同士、子どもと親、親同士をつなぐ

\* 記録・共有

\* 具体性から意味性

\* 発信

～子どもに寄り添うって、どういうこと？～

技術ではないですね…

出会うこと 丸ごと受けとめることからですよ…

見えてきたことを振り返り、共有し、意味を考え、どう子どもにかえしていくのか…